

令和3年度 第1回 熱海市総合教育会議 会議録

開催日時：令和3年5月26日（水） 16時00分～17時20分

会 場：熱海市役所第3庁舎第1～3会議室

出席者：【構成員】市長[議長]・教育長・水野委員・柳町委員・木田委員・沓間委員

【関係者】副市長・副市長・経営企画部長・健康福祉部長

【事務局】経営企画部次長・教育委員会事務局次長・学校教育課専門監・
学校教育課長・生涯学習課長・図書館長・社会福祉課長・
企画財政課長

【説明者】指導主事・指導主事

議 事：（1）熱海市教育振興基本計画（兼教育大綱）の自己点検・評価について
（2）熱海を知る保育プロジェクト「はつしまたんけん」の報告について
（3）英語民間検定について

議事要旨：以下のとおり。

1. 開 会

2. 市長あいさつ

○市長

皆様こんにちは。開会にあたりましてご挨拶を申し上げます。

まず、本日は大変お忙しい中、令和3年度第1回目になります熱海市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。日頃から熱海市の子どもたちの教育の充実、また発展にご尽力を賜っておりますことを感謝申し上げます。

そして今年度より、沓間委員が教育委員としてご就任をされております。総合教育会議も新たな体制でスタートいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて本日、この会議の前であります。前教育長が市役所市長室を訪問されました。これは前教育長が、教育功労ということで叙勲を受けられ、その伝達を私からさせていただいたわけですが、今の熱海をご覧になってどのようなご印象ですかと、私の方から質問したところ、「熱海は最近、若い人が育っていますね」という発言がございまして、ゴルフや相撲やそして駅伝で活躍中の熱海出身の若者・アスリートのことを多分指しているのだと思います。人を育てるといふ教育の大きな目的を再認識したところでもあります。

さて、本日の会議におきましては、昨年、令和2年度が新たな教育振興基本計画がスタートをした年です。今年度はその2年目になるわけですが、この新たな基本計画の自己点検・評価の結果から、進捗状況また実施効果等を確認したいと思っております。

そして、この新たな基本計画に基づいた事業である「はつしまたんけん」、また、英語の民間検定につきまして、その課題や方向性について議論ができればと考えております。出席の皆様の活発なご意見をお願いして私からの挨拶とさせていただきます。

○市長

それでは早速議事に入ります。次第に従いまして1番目の熱海市教育振興基本計画（兼教育大綱）の自己点検・評価についてです。事務局から説明をお願いします。

3. 議事

（1）熱海市教育振興基本計画（兼教育大綱）の自己点検・評価について

○事務局

資料1に基づき説明

○市長

以上で事務局からの説明が終わりました。ただいまの件につきまして、ご意見ご質問のある方は挙手のうえ発言をお願いします。

○委員

教育委員会の活動内容・点検ということで、1年を振り返りましたけれども、やはり新型コロナウイルスによって阻まれたことも多々ございましたが、逆に、そのために進んだこともございまして、先ほどおっしゃられたようにGIGAスクール構想のタブレット端末の各個配布の前倒しは、もしかしたらその一つかもしれないとも思いますが、その視察も含めて、今回は各学校を回らせていただきまして、先生方の実際の授業を目にすることもできました。

確かに先生によっては、多少の得手不得手といいたいまいしょうか、とても上手に授業に取り組んでいらっしゃる先生もいらっしゃるが、そうでなかった先生もいらっしゃったのが現実のように思いましたので、そのギャップというか、だんだんと慣れていただければそれも解消するのでしょうかけれども、心配とまではいきませんが、目についたところではございました。

あとはその子どもたちが、実際、今の生活の中には、すでにそういった端末はもう普通にある時代でありますので、あまり手間取っているようなお子さんは見受けられなかったのですけれども、逆に、本当のその知識を得るためにそれをどう使っていくのかというような課題も見えたような気がいたしました。

○市長

ご意見ということでよろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

○委員

この評価の仕方が、昨年までと違って、A B C D評価から教育委員会が管理・執行する事務以下、目標設定をしていただいております。この目標設定をしていただくというのは私たちにとりましても、とてもわかりやすく良いことだなと思いますけれども、来年、この評価を見直す時に目標についてちゃんとできたかどうかという前に、例えば半年ぐらい経った時に、目標設定についてどのぐらいの指数まで達成できているかということもお示しいただいて、そのあと半年間ぐらいで、こんな計画で行きましょうみたいなことが、できたらいいなと思いますので、その辺ご検討またお願いします。

○事務局

教育委員会では定例会を毎月行っておりますので、そちらで委員の皆様方にお示しができればと考えております。

○委員

小中学生の睡眠の時間等の調査、コロナで生活が不規則になっている部分が見受けられるというところがありましたので、ネットトラブル等も含めて、今後もぜひ、調査を続けていただきたいなと思うところです。

あともう1点、11ページ施策7で、主な取り組み、小中学校において教科化する特別の教科道徳の箇所ですが、もうすでに道徳が教科化されているのでこの表記だけ見直していただければと思います。

○事務局

睡眠時間につきましては、昨年この時期は学校がお休みということで、おそらくその影響もあるのではないかという分析が出ておりました。今年度につきましては、すでに学校が開始されて、大分経っておりますので、このあたりの改善はできているのではないかと考えております。またそのあたりにつきましても、先ほどものご案内の通り、定例会でお示しができればと考えております。

もう一つ、教科化の方ですけれども、こちらのご指摘ありがとうございます。直しまして、来年度以降の指標を出していきたいと考えております。

○市長

いくつかのご意見出ましたが、教育振興基本計画が2年目ということですが、評価をしながら、A B C評価や数字の評価でありますけれども、定点観測をしながら、これから進めていきたいと思っております。また随時、鈴木課長からもありましたが、定例会議でも報告しながら、1年に1回、振り返るだけでなく、随時情報を皆様と共有しながら進めていきたいというふうに思います。それでは、他にご意見も質問等もないようですので、次の議題に移らせていただきます。

(2) 熱海を知る保育プロジェクト「はつしまたんけん」の報告について

○説明者

資料2に基づいて説明

○市長

ただいまの説明につきまして、ご意見ご質問のある方、挙手のうえ発言をお願いします。

○委員

とても素晴らしい活動をありがとうございました。特に、この事前プロジェクトチームによる検討会が本当に良いと思います。事前に子どもたちの気持ちを高めて当日を迎えて、そして初島行った後に、それについて事後いろいろな活動をするということで、特に小さな子どもたちには育てていってもらいたいと思うのは、やはり自己肯定感を高める。そんな中で何日かかけて、自分の気持ちを高めながら、そのお手伝いをしていただいて、子どもたちがその事業に繋がっていくということは、とても素晴らしいと思いますので、お話にもありましたとおり、初島もちろん、また来年も良いかと思えますけど、また山とか、また違った歴史文化に関わるようなものとかという熱海に特に興味を持ってもらえるようによろしくをお願いします。とても良かったと思います。

○委員

昔、熱海市民でも初島に行ったことがないという方が、かなりいたというようなことをお聞きしました。今は船も良く、すぐ行けると思うのですが、実際、熱海に住んでいて初島を知らないという方が多いです。笑い話で、人が住んでいると思わなかったという話も聞いたことがあります。

県内唯一の離島ということで、静岡県にとっては特色のある、また熱海市にとっても良いところなのです。そういうのを、熱海の子どもたちに知ってもらおうというのはとても良い機会であり、いい経験だなと感じております。

天候等もありますので、あんまり良くなかったということなのですが、小さい子どもたちには本当に生の体験というのが必要で、実際に船に乗るという経験、潮のにおいがかぐ、運が良いと船の上からトビウオも見られる。それから、熱海に住んでいる方も実際に見た方は少ないかと思いますが、海に出ないと見られないのですが、熱海のまちの上に、山の向こうに富士山が顔出すという景色、このようなものを実際に子どもたちが小さいときに、体験できるというのは、本当に良い事だな、ありがたいなと思います。初島がなければ見られない独特のものが、たくさんあるかなと思います。

ただ、園外ですから、例えば引率のこととか事故のこととかで非常に、悩んだり、心配されて作ってきたところがあるかと思いますが、ぜひ、このような子どもたちの体験の場というのは大事にしてもらえれば、すごくありがたいかなと感じております。

初島の子どもたちにとっても、本島の様子などもわからないと思うので、そのようなところでも良い交流にお互いになるのかなと感じております。

まだ小さいですから、どんなことが心に残ったかというのはわかりませんが、島へ行ったということ、島の様子を知るということは、熱海に生まれ育って住んでいく人達にとっては、良い思い出になるなど自分も実感しておりますので、ぜひいろいろ課題はあるかと

と思いますが、このようなものを続けていただけると、とても良いのかなと思いました。

○市長

今回行った子どもたちのうち、初めて初島へ行った子どもたちがほとんどなのでしょうか。

○説明者

船に乗ることも初めてというお子さんがいまして、バスの乗り物酔いをするけれども船はわからないというお子さんもいらっしゃったのですけれども、船に乗って揺れることとか、波の動きを見るというのがすごく楽しそうでした。

ほぼ初めてだったと思います。

○市長

一般の大人の方も、熱海を海から見る景色は機会が限られていて、熱海自身が伊豆半島のつけ根にあること、また、先ほど委員がおっしゃられましたけど、市街地の向こう側に富士山があるということを、資料2にあるように、北川先生が地図を見ながら説明していますが、要するにジオパークのまさに特殊な地形の中で、ここから温泉が湧き出て観光地としてという中に君たちは生きているんだよみたいなのが、海から見ると改めて、そういったものが感じられるのではないかなと私は思ったので、多くの子どもたちが初めて船に乗って見てもらうというのは意味があるのかなと思います。親御さんたちに帰ってからどんなふうに話すのかなというのが、興味がありますので、これを機会に、ご家族もぜひ、初島に足を運んでもらえればなというふうに思いましたという感想です。

○教育長

この年代の子どもたちが、体験を通して学ぶってとても大事なことで、子どもたちが本当に感動をしたり、いろいろなことに気づいたのだなということは、資料2の7ページの保護者の声の中で、家に帰って子どもたちが本当に夢中になって楽しかったことを伝えているというあたりからも読み取れるのかなというふうに思いました。

その上で、教育の視点から考えたときに、活動あって学びなしという言葉があるのですが、活動をしたからといって子どもたちは本当に学んだのかというところがあるかとは思いますが、その次のページに、きちんと子どもにつけたい力をおさえた上で、この活動を実施しているというところが、つぼを押さえて実施されたので、子どもたちはたくさん学んできたんだろうなというふうに思っています。そういう部分についても、隙がなく、きちんとした行事が行われたのかなというふうに、私は思いました。

○委員

とても大変貴重な体験をさせていただいて本当に、この熱海の子どもに生まれてよかったと思ってもらえたら嬉しいです。

私も皆様おっしゃったこととほとんど同じ感想にすぎませんが、保護者の皆さん

のこのコメントを見せていただいて、先生が気持ち悪くなってしまったという子どもの言葉を受けて、お母様にご心配になって書いてらっしゃる。とても大事なことだと思ったのです。まず気持ち悪くなってしまうのだということが実体験としてわかり、こうして気にかけて大丈夫だろうか心配してくれる。すごく大きな学びなのではないかなと思いました。

先ほどGIGAスクール構想の話に触れましたけれども、コロナというこの大敵が現れたがために、人と人との密着というのでしょうか触れ合いがなかなかできなくなる中で、こういう子どもの時に体験をして相手を思いやるという心がついたということはなかなかできなく難しいのではないかと思います。それを先生方の英断で、実体験として根づかせてもらえた。多分、このお子さんだけじゃないと思います。大丈夫だろうかと思ったり、またお友達の具合が悪くなって、それを心配だと思ったお子さんがいたことが、すごく大事だと思いましたので、海の香りや、先ほど委員がおっしゃったような富士山が見える風景とか、地平線だけじゃなく水平性が丸いということがわかったお子さんとか、そういう素晴らしい体験というのは、熱海ならではかもしれないと思いましたので、ぜひ2度目3度目と続けていただきたいと思いました。

○市長

それでは、他にご意見等もないようですので、3つ目の議題に移らせていただきます。

(3) 英語民間検定について

○説明者

資料3に基づき説明

○委員

ベネッセさんという大手のところにノウハウをご提供いただくというのは、とても有効だと思います。先生方の感想を拝見しても、先生方の今後の授業の改善や、生徒さん自身が自分の力を知ることによって、また今後の授業に役立てていただけるというのはとてもありがたいと思うのですが、2点ほど質問です。

考え方として、GTEC（ジーテック）を活用して向上を図って、CEFR（セフアー）で指標を評価するという認識で良いのでしょうか。

もう1点、英語の4技能テストということで、タブレットを使って話すということですが、話すと他の生徒さんにも聞こえてしまうのではないかと感じました。その辺りテストの方法ですとか、どのようにされていますか。実際に他の生徒さんが話されているのを聞いて、ああいうふうに答えればいいのかと思ってしまう生徒さんもしかしたらいるのではないかとこのところも含めて教えてください。

○説明者

まず、結果の方ですけれども、GTECでは点数が出て参ります。その点数によって、CEFRのA1やA2という形で、点数とCEFRのランクというのが二つ出てくるように

なっております。

2つ目のテストを受けるときですけれども、基本的に距離が1.5メートルほどの間隔があれば、ヘッドホンをしてマイクがついている形になりますので、そんなに隣の声は聞こえてこないという状況になっています。ただ、人数が多い学校になりますと、例えば、熱海中学校4クラスあるとしますと、話すテストを1時間目に行うクラス、それを2時間目に行うクラスと時間割を少し前後させることや、あと食堂を使いながら、実施しているという形になっております。

○委員

工夫してくださっているということでせつかく話すことを評価していただける機会なので、正しく評価してもらえればなと思います。

○委員

普段の授業で使っている教材があるわけですが。教材を僕らも見させていただくのですが、その教材を使ってこのGTECをやるわけですか。GTECという試験みたいな方法で、評価がCEFRという評価ですよ。そうすると、テストの仕方をGTECでやるからといって、それがすぐに直接その英語力にどんどん繋がっていくかとはちょっと感じられないと僕は思います。普段の継続した勉強が大事だと思う。GTECとCEFRという評価の仕方がうまく結びついて英語の授業が進んでいっているのかどうかということをお聞きしたいです。

○説明者

ベネッセさんと私も何度か打ち合わせをさせていただいているのですが、やはりベネッセさんもGTECを売りにしたいのはあるとは思いますが、テストの結果をどうするかではなくて、どうやって英語の授業にGTECを生かしていくか、どうやって、普段の英語の授業を発展させていくかというところに重点を置いていますというようなおっしゃり方をしておりました。

確かに話す力をすぐに授業に活用するという方法は、模索中という段階ではあるのですが、まずは、今までGTECがなかったときには、話す力が弱いということが課題としてなかなか挙がらない、気づかないということがありました。数値化したことで、まず話す力が弱い、では話す力をつけるためにはどうしよう。熱海市にはALTがいる、1人1台のタブレットがある。そういったところをどう活用していこうかと研修会の中で模索をしているという形になります。

○委員

話す力を高めるために、タブレットを使って勉強していることにも、GTECを活用していくという理解で良いですか。そうであればとてもよくわかります。お金もかかることで、市にも負担をかけてもらっていることなので、とても効果があるようになればいいなというふうに思っております。

○市長

資料3の9ページの数字を見て、客観的にこの時点での中2、中3のそれぞれの力が数字で表されて、特にライティングは、公立中全国平均よりも高く非常にうれしく思ったのですが、一方で、スピーキングが低いというのが大変ショックでありまして、これまでALTが非常に充実しているということを、胸を張って言っていたにもかかわらず、低いというのはなぜなのか。分析として、ALTのこれまでの授業が必ずしもスピーキングには、貢献しなかったということなのか、どこをどうすればいいのか、これをどのように解釈すればいいのでしょうか。

○説明者

ALTにつきましては、やはりコミュニケーションの力を伸ばすということで、多く導入をしていただいているかと思います。やはり話すということになってきますと、普通の授業の中でも当然子ども同士で、お互いに話をしたりという活動は行っておりますけれども、子どもたちの中に、通じる英語を使えているかどうかというところの視点が、英語教員や子どもたちにあるかどうかというところが、課題としてあるかなと思います。ALTの活用の仕方として、通じる英語を子どもたちが使えているかどうかという少しレベルを上げた観点で、子どもたちと接してもらえようになると、さらに子どもたちの力が伸びるかと考えております。

○市長

それは具体的には、ALTの教員の皆さんに、通じる英語が使えるような教え方・教材というか、そういうことをやらないといけないということなのでしょう。

○説明者

教材というよりも、私個人の考えでもあるのですが、そのALTの先生とコミュニケーションをとるときに、正しく発音できているかどうか、外国人にとって聞き取れる英語であるかどうかという厳しい基準で対応してもらえると、また変わってくるかなと思います。

○市長

ぜひここは、冷静に分析していただいて、ALTの充実がこのスピーキングに貢献するように思っていたので、ベネッセ、専門のところとも相談しながら対応してもらいたいと思います。

○委員

わかる範囲で結構ですが、GTECは、日本或いはこの近辺でどれくらい取り入れられているのか。もう1点は、とりあえずは、力を判断する材料のテストと考えてよろしいのでしょうか。

○説明者

導入している校数は私も把握はしていませんので、特に東京都中心で導入されているという話を伺っております。GTECのテストにつきましては、今現状として課題が見えてきましたという段階になりますので、今後は、学年をおって、経年調査をして子どもたちが自分の伸びを実感できるというようなところにつなげていければと思っております。

○教育長

県内公立校で最初ではないかなというふうに思っています。静岡県であまり取り組んでいるところがなかったので、そういう面では非常に新しい取り組みではないかというふうに思っています。

ALTをつけているのに、スピーキングがあまり良くないとご指摘がありましたけれども、このテストは基本的にアセスメントテストということで診断します。どういう力があるか、どういう力が身についていないのかということ診断しますので、この結果に基づいて、ALTをどう有効に活用していくのか。それからタブレットをどう有効に活用していくのかということについて、教職員も考えたりとか、ベネッセさんからアドバイスをいただいたりということを使っていくということなので、ALTとこのGTECが両輪としてうまく機能していくと、成果に繋がっていくのかなというふうに考えているところです。

○委員

教育長の話を聞いて、よくわかりました。ALTの活用をより効率よく使うためにGTECの評価をしていただくということだったので、お願いします。

○委員

画期的な施策だなと思って感心をいたしておりますが、今のお話の中にも種々ありましたが、やはり1・2点お聞かせください。まずこれは、生徒側にとって、受けた受験生側にとって自分の弱点はどこなのかという知る側面、つまり勉強をどこに重点をこれから置いていくべきなのかという側面でしょうか。と同時に、教えてくださる先生方が、どこを重視していけばいいのかということを知る側面、どちらかといえば、どちらが主なのでしょうか。

○説明者

それは両方の側面がありまして、子どもが課題を認識するというのも、次の学ぶ意欲に繋がっていくところになりますので、やはり子どもが掴むというのが、もちろん主にはなっております。

○委員

そうだと思っております。ただし、今ちょっとご説明があったようにこの近隣でもほと

んど導入がないという段階において、例えば、自分がどの辺の立ち位置にいて、中学3年生でした、受験にどこにどう力を入れたら短い期間で有効的な勉強ができるのだろうかとかそういう指針にはまだならないわけですよ。自分の弱点としてはわかりますけれども、例えば、この辺の同じような中学校の中において、自分は大分まだ届かないのかなとか、あと逆に、ここだったら、他のところにもっと力が配分できるのかとかそういう指針にはまだならないのですか。

○説明者

文部科学省の学習指導要領も、やはり実践的な英語力、使える英語力というところを重点に置いておまして、やはり英語としてつきたい力・資質能力というのは、英語のコミュニケーションの中で、実際に通用する英語ということになります。そうしますと、ペーパーテストのみの受験とは、少し異なる部分も、今、高校受験では、スピーキングでテストがあるわけではないわけですが、最終的に目指すべきところは、実践的な英語力になりますので、そちらの方に重点を置いた授業となっております。

○委員

それでは、個人個人の大体の学力・今の到達度合いがわかってきた段階で、例えば先生側としては、習熟度別にクラスを設けるとか、そういうことまで考えられるわけでしょうか。

○説明者

現在そこまでの話は出ておりません。

○委員

委員が今お話質問されたことに近いのですが、数学とか例えば、問題を解いて、この問題が解けなければ、例えば1年生のこの単元に戻って勉強しなさい、或いはもっとできなかつたら、小学校のここへ戻ってから勉強しましょうとかというふうな積み重ねだから、元に戻る場所まで。専門的なベネッセであり、塾なんかはよくあるじゃないですか。同じように、英語でも、スピーキングの力が少ないけども、聞かないとしゃべれないのだから、そういったことがこの辺まで戻ってこの教材を始めて勉強したほうがいいのかというところまで、ベネッセさんは、その子どもをとった点数や評価でお示しいただけたらいいなと思いました。そうすれば、タブレットがあるわけですから、習熟度順のクラスではなく、自分でそのタブレットを使って勉強したり、AIで発音を評価して、発音の仕方をAIが教えてくれる話がありましたけれども、それも含めて自分でできるのであれば、ここまで戻ってこの授業・勉強から進めようみたいなところまで、せつかくこのようなテストでやってくださるならば、お示しいただけるようなことをちょっとお話しされたらいいのではないかなと思いました。

○教育長

やはり、委員さんがご指摘されたように聞き取れなければ答えられない。そういう意味で、熱海の場合は、小学校にもALTを配置していただいて、切れ目なく英語に親しむ時間を作っていただいているということもありますので、そういう中で、今ご指摘があったようにベネッセさんのアドバイスもいただきながら、そういう力をしっかりと振り返りながら、ステップバイステップで学んでいくということをやっていく必要があるのだなというふうに思ったところです。

同時に、実はその小学校の英語の免許を持っている先生は、昨年度6人でした。今回の人事異動で熱海市内の小学校で英語の免許を持っている先生を8人にすることができました。そういうことも含めて、英語を専門的に教える先生を小学校に少しずつでも配置していくことも、委員さんがご指摘された、学校現場の中でベネッセさんに頼りきりではなくて、やっけていくことにも繋がるのかなあというふうに思っていますので、そのあたりもまた努力できればいいなというふうに思っています。

○市長

他にいかがでしょうか。

それでは、他にご意見もないようですので、以上で本日予定しておりました議事はすべて終了いたしました。活発なご意見ありがとうございました。

最後に、次第にありませんけれど、その他で教育の関係でご意見等ございますでしょうか。

また事務局から何かありますか。

○事務局

特にございません。

○市長

それでは、以上で第1回熱海市総合教育総合教育会議を終了させていただきます。長時間、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

5. 閉会

終了 17:20